日本をおいしくする
SHOWA

CSR REPORT 2014

Corporate Social Responsibility Report

昭和産業株式会社

CONTENTS

事業内容 …… 2
トップメッセージ …… 3

特集
1. 災害時も、安心・安全な商品を安定して供給するために …… 5
2. 飼料用米を通じた自給率向上への貢献 …… 7

マネジメント
昭和産業グループのCSR …… 9
コーポレート・ガバナンス …… 12
リスクマネジメント …… 13

CSR行動規範に基づく活動
①安心・安全で高品質な製品の提供 …… 14
②公正な企業活動 …… 17
③人権尊重（社員とのかかわり） …… 19
④環境への配慮 …… 22
⑤社会への貢献 …… 26
⑥ステークホルダーとの対話・情報開示 …… 29

「穀物ソリューション・カンパニー」

～大地の恵みを食卓へ～

昭和産業グループの食品づくりは、

穀物の調達と素材の加工からはじまります。

小麦、大豆、菜種、トウモロコシなどの穀物を

豊かな食生活に欠かせない幅広い製品に加工し、

お届けしています。

お客様のニーズや課題に

穀物によるソリューションでお応えする

「穀物ソリューション・カンパニー」として

これからも人々の健康で豊かな食生活に貢献していきます。

事業内容

会社概要（2014.3.31現在）

昭和産業株式会社

本社所在地
〒101-8521
東京都千代田区内神田2丁目2番1号
（鎌倉河岸ビル）

創立	1936年（昭和11年）2月18日
代表者	代表取締役社長　岡田　茂
資本金	127億78百万円
決算	年1回、3月
上場	東証一部
事業場数	本　社：1、支店：7、出張所：2、研究所：3、工場：3
子会社・関連会社	子会社数…18社　関連会社数…14社
社員数	1,111名（連結：2,037名）

編集にあたって

昭和産業グループの企業理念である「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」ことを基本に、「食」を中心としたさまざまな場面における当社の活動について、幅広く、わかりやすくステークホルダーの皆様にお伝えすることに努めました。

また、より多くの方に情報開示するために、当レポートの内容は、過去のレポートとともにホームページ上にも掲載しています。

特集ページは、特集1として食の安定供給に関して東日本大震災後の製品の安定供給について、特集2として「フード・アクション・ニッポン アワード2013」研究開発・新技術部門優秀賞を受賞した「こめっ娘シリーズ」について、紹介しています。

報告内容

● **対象組織**
昭和産業グループ
具体的な活動内容については、主に昭和産業（株）単体について報告しています。

● **対象期間**
2013年度（2013年4月1日～2014年3月31日）の活動を中心に、一部に過去の経緯や最新の情報を含め報告しています。

● **参考としたガイドライン**
・GRI「サステナビリティ レポーティング ガイドライン第4版（G4）」
・環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」

トップメッセージ
TOP MESSAGE

昭和産業株式会社
代表取締役社長　岡田　茂

「穀物ソリューション・カンパニー」として

昭和産業グループは「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」ことを経営理念とし、小麦、大豆、菜種、トウモロコシなどを原料とし、小麦粉、植物油、糖化製品、配合飼料の製造・販売など幅広い事業を展開しています。多種多量の穀物を取扱うこの当社独自のビジネスモデルで、調達から生産・研究開発・販売など、あらゆる過程でそれらのシナジー効果を活かして、さまざまなステークホルダーのみなさまへソリューション（課題の解決策）をご提案しております。また穀物の海外調達のみならず、自社サイロでの保管も手がけ、食品メーカーとして穀物の取扱量は日本一※を誇ります。「穀物ソリューション・カンパニー」として経営理念を実現していくことこそが、社会に対して果たしてゆかなければならない最大の社会的責任であると思っています。

食の安心・安全、安定供給など、今後ますます高まる「食」への期待に、社員一人ひとりが、「穀物ソリューション・カンパニー」としての誇りと使命感をもって、あらゆるステークホルダーのみなさまに「食」の課題解決をお届けすることに、一層の努力を重ねてまいります。

※当社調べ

将来にわたり選ばれ続ける企業を目指して

2012年度よりスタートした「中期経営計画12-16」は、フェーズ1（前半2ケ年）を終えましたが、おかげさまで目標数値を達成し、フェーズ2（後半3ケ年）では、経営方針である「誠実な行動」「力の結集」「明日への挑戦」、そして6つの基本戦略に基づき、さらに具体的な取り組みを進めてまいります。基本戦略の一つに「CSR 経営の推進」を掲げ、食の安全や温暖化対策、コンプライアンスの徹底など様々な課題に対し、当社が何をすべきか、何ができるかを考え、具体的な活動方針を定め行動しています。

全グループ社員に徹底している「昭和産業グループ　CSR行動規範」に則り、私たち役員、そして社員一人ひとりのベクトルを合わせ、全員で協力し、社会から信頼される企業グループであり続けるための努力をしてまいります。

中期経営計画12－16

（2012年4月1日～2017年3月31日）

経営方針

「誠実な行動」
社会に対して、お客様に対して、社内の仲間に対して、常に誠実な行動を心がけ、長く愛される企業グループとしての発展を目指します。

「力の結集」
昭和産業グループ全体の力を結集し、幅広い事業を展開するシナジーを発揮することで、企業価値の向上に努めます。

「明日への挑戦」
未来に向けて、昭和産業グループの持つ潜在能力を掘り起こし、新たな製品、新たな市場を切り拓きます。

基本戦略

1. **基盤事業の持続的成長**
各事業の将来にわたる成長戦略を示し実行する。
2. **新たな分野への挑戦**
技術研究開発の強化を図り、市場に新たな価値を提供する。
3. **海外事業の強化**
将来の海外展開ビジョンを描き、その実現に向けた布石を打つ。
4. **効率化の推進**
原料穀物高と世界経済不況に勝ち抜くコスト競争力をつける。
5. **グループ連携の強化**
グループ全体の発展を目指した取り組みを強化する。
6. **CSR経営の推進**
社会とのつながりを意識し、信頼を高めるための取り組みを推進する。

フェーズ1（2012～2013年度）
- 重要課題への着手
- 短期的な課題に対する施策の実現

フェーズ2（2014～2016年度）
- フェーズ１で定めた重要課題の成果実現
- 昭和産業グループの総合力とシナジーの発揮

2012 → 2013 → 2014 → 2016

2016年度目標
連結売上高　2,680億円
連結営業利益　100億円
連結経常利益　100億円

フェーズ１の成果

●基盤事業の成長の実現
- ▶部門横断的戦略委員会による中長期プランの立案・実行
- ▶セントラル製粉株式会社の株式取得

●新たな分野参入・既存事業拡大へ向けた設備導入

●企業ブランド戦略の再構築
- ▶ブランドメッセージ「穀物ソリューション・カンパニー」の発表

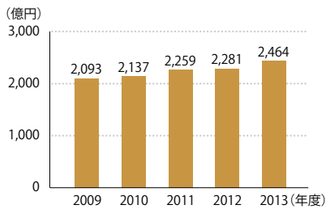
●アジア地域への事業展開
- ▶ベトナム最大手プレミックスメーカー インターミックス社への資本参加
- ▶大成昭和食品（天津）新工場稼働

●新統合基幹システムの導入による在庫管理の最適化

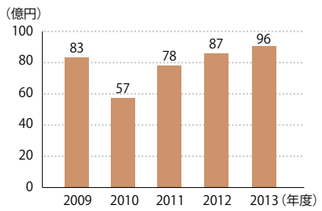
●グループ全体での製品安全対策強化

昭和産業　企業CM（ブランドメッセージ篇）

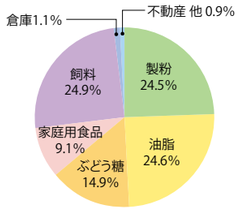
■売上高（連結）



■経常利益（連結）



■事業別売上高構成比
（連結／2013年度）



特集 1

災害時も、安心・安全な商品を安定して供給するために

■取り組みの背景

昭和産業グループは、小麦、大豆、菜種、トウモロコシなどの穀物原料を、小麦粉などの食品素材に加工して提供しています。食品素材の供給が滞ると、それを原料とする食品の供給にも影響を与えてしまうため、「食の安定供給」が社会に対する重要な責任であるととらえています。

1995年の阪神・淡路大震災から10年経った2005年を期に、大規模災害対策委員会を設置するなど、様々な対策を進めています。

2005年以降に実施した主な対策

災害備蓄品

災害訓練

解体工事前神栖社宅

●2005

大規模災害対策委員会を設置

①耐震診断と補強工事の実施
②災害用備品の整備
③災害対策の組織体制
④安否確認と通信手段の整備
⑤災害訓練についての見直し
⑥BCPマニュアル策定

●2006

●2007

2007年本社ビル耐震診断

▶2008年耐震強化工事

●2008

2008年社宅耐震診断

▶2009年解体撤去

▶2008年鹿島工場において、液状化対策工事

改修工事後桟橋

桟橋地盤調査

耐震強化後本社ビル

2005年鹿島工場において、桟橋・岸壁の液状化・耐震調査

東日本大震災の影響

2011年の東日本大震災では、鹿島工場は津波や激しい揺れによる設備の被災、公共インフラの途絶など、大きな影響を受けましたが、阪神・淡路大震災の経験に基づいて、事前に実施していたBCP対策により、周辺地区に比べ被害を軽微なものにとどめることができました。

一時的に製品供給が滞りましたが、出荷の可否等に関する迅速な情報公開や早期の操業開始など、安定供給に向けた当社の取り組み姿勢が、取引先からの評価向上と関係強化につながりました。

また、震災後には鹿島工場が首都圏の食糧供給に対する極めて重要な役割を担っていることが評価され、より多くのお客様に当社の製品をご利用いただけるようになりました。

桟橋が完全に水没し津波が岸壁を覆いはじめた状況

〈当時の様子〉

防災資材・原料ベルトコンベア

立体倉庫清掃作業

近隣液状化

担当者より

鹿島工場
生産課物流ユニット
ユニットリーダー
吉村 典之

鹿島工場において、復旧に時間を要したのは、業務用小麦粉製品を保管していた立体自動倉庫です。地震の揺れでラックから製品が多数落下し、小麦粉が床一面に飛散しました。余震が続く中、多くの従業員が人海戦術により飛散した小麦粉の回収を行うとともに、すべての製品を一旦外部倉庫へ預け入れて、約1か月半の出荷に対応しました。この間、倉庫内の点検と徹底清掃を実施し完全復旧に至りました。今後も今回の震災を教訓に、ハード・ソフト両面の対策で、より災害に強い工場にしていきたいと思います。

今後の取り組み

- ●昭和産業グループのBCP対策の強化
- ●倉庫の防災対策の推進
- ●施設の耐震・免震化の推進
- ●各種災害訓練の継続的実施
- ●大規模災害対策の見直し

責任者より

専務取締役
佐久間 潤

鹿島地区では、幸いにも人的被害は少なかったものの、家屋や工場の損壊、液状化による道路の陥没や上下水道の断絶など、市民生活や企業活動に大きな影響が生じました。中でも市内のスーパーやコンビニから、パンやラーメンなどの食品がなくなってしまった光景は衝撃的であり、昭和産業グループの社会的責任である「食品素材の安定供給」について、全従業員が改めて強く意識する機会となりました。「お店の棚にパンを!」という使命感の下、傾いたままの自宅から工場の復旧に通うものもあるなど、全従業員の一致団結によって早期の操業再開につなげた経験は、会社にとっても社員にとっても、長く受け継ぐべき尊い財産であると思います。

特集 2

飼料用米を通じた自給率向上への貢献

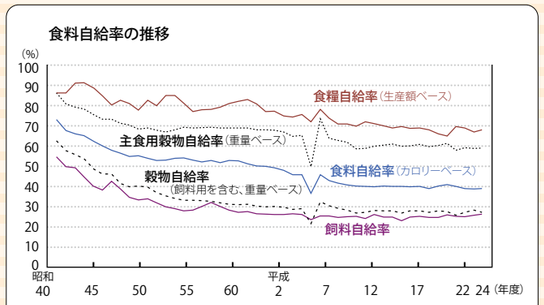
■自給率向上に向けた飼料用米事業の取り組み

日本の食糧自給率は、カロリーベースで39%となっており、食糧自給率の向上は重要な課題です。一方で、食用米は減反政策がとられ、約4割の水田が休耕地となっています。

昭和産業グループでは、このような社会的課題の解決の一助となるよう、休耕地の活用による食料自給率向上に貢献するため、2008年より飼料用米事業に取り組んでいます。

◆飼料用米とは?

鶏や豚などの飼料に使われるお米です。自給率向上のため、農林水産省などが新規需要米(主食用以外のお米)として推奨している取り組みです。品種は食用品種の他に飼料用米専用品種もあります。



出典:農林水産省ウェブサイト http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/011.html

■バリューチェーン全体での自給率向上の推進

昭和産業グループでは、2008年から飼料用米事業に取り組んできた経験とネットワークを生かし、飼料用米の調達から鶏卵の販売まで行っています。

飼料用米の調達先である主要な稲作農家の方々とは定期的に協議会を実施し、密接な協力体制を築いています。また、飼料用もみ米を雛鳥に給与できる飼料を開発し、お客様である養鶏農家の方々からは、雛鳥の発育が良好になったとのご評価をいただいています。さらに飼料用米を食べた鶏が産卵した卵を販売し、バリューチェーン全体で食料自給率向上に向けた取り組みを進めています。

- **自給率の向上**
- **安心して食べていただける鶏卵の提供**
- **水田の景観維持、生物多様性保全**

稲作農家さんよりひとこと

飼料用米は水田で稲作ができるので、稲作農家にとってメリットが大きい作物です。さらに、もみ殻つきのまま出荷できると、脱穀の手間が省けてありがたい。昭和産業の担当者とは、定期的に協議会を開催し、取り組み数量や作付け品種の選定など、直接意見交換ができるので助かります。

茨城県利根町の飼料用米生産者の皆様

養鶏農家さんよりひとこと

「安心して食べてほしい卵」にこだわり、国産の飼料用米が入った飼料を雛から成鶏まで給与して、我が子のように気にかけて育てています。お米を食べると健康に育って、おいしい卵をたくさん産んでくれます。

千葉県旭市農業組合法人 北総養鶏組合

「フード・アクション・ニッポン アワード2013」で優秀賞を受賞

昭和産業は「フード・アクション・ニッポン　アワード2013」研究開発・新技術部門にて「国産米を配合した飼料『こめっ娘シリーズ』の開発」で優秀賞を受賞しました。

飼料用米は通常、もみ殻を除いた玄米で飼料に配合しています。しかし昭和産業では、粒が大きく食べにくかった飼料用もみ米を粉砕・形成加工し、生まれたばかりの雛鳥も食べられるようにすることで、雛鳥の発育が良好になることをつきとめました。そして、業界初となる「飼料用もみ米を配合した雛鳥用飼料『こめっ娘シリーズ』」を発売し、この技術に関する特許が2014年4月から公開されています※。

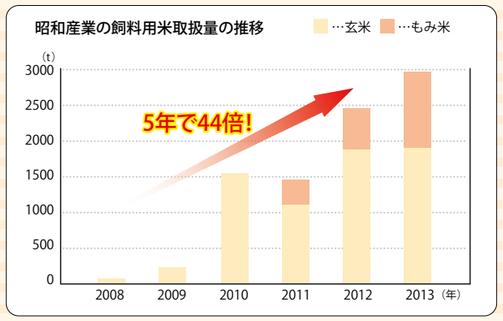
また、もみ殻つきのまま飼料米を集荷することで、原料供給元の稲作農家から、もみ殻を有効利用できるとの好評価をいただいています。

※特開2014-57576

フード・アクション・ニッポン アワード 2013

◆フード・アクション・ニッポン アワードとは

国産農産物の消費拡大の取り組みとして農林水産省が立ち上げた「フード・アクション・ニッポン」の展開の一環として創設されました。食料自給率向上に寄与する事業者・団体等の取り組みを一般から広く募集し、優れた取り組みを表彰することにより、食料自給率向上に向けた活動を広く社会に浸透させ、私たちや未来の子供たちが安心しておいしく食べていける社会の実現を目指しています。2013年度は819件の応募がありました。



担当者より

飼料畜産部
村田　暁

今後も飼料用米の活用を進め、年間取扱量2万トンを目指します。また、稲作農家や養鶏農家の方々との連携を深めながら、循環型農業の実現と自給率向上に貢献していきたいと考えています。

昭和産業グループのCSR

昭和産業グループは「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」ことを通じて企業の社会的責任を果たしていきます

企業理念

「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」

CSR行動規範

昭和産業グループは、「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」ことにより、あらゆるステークホルダーから信頼を得られるよう、CSR行動規範を定め、企業の社会的責任を果たしていきます。

CSR活動方針と取り組み

課題	5年間の活動方針	2013年度の活動目標
CSRマネジメント	●CSR委員会を定期的に開催し、昭和産業グループ全体に対してCSRの啓発を行います。 ●リスクマメジメント委員会を定期的に開催し、リスクマネジメント体制の強化に努めます。 ●社会環境やリスク内容の変化に対応し、BCPマニュアルの内容を見直し、充実を図ります。	●各委員会の活動推進体制強化
①安心・安全で高品質な製品の提供	●「食品安全・品質マネジメントシステム」の継続的改善により品質保証体制を強化します。 ●「フードディフェンスプログラム」の継続的改善により食品安全に対する危害の未然防止体制を強化します。 ●「RD＆E（研究・開発・技術）」活動を通じて食品安全・品質の向上を図り、新たな製品及び新たな市場の開発を進めます。 ●「食品安全・品質マネジメントシステム」におけるグループ連携を強化し、昭和産業グループの信頼性向上・継続的発展に寄与します。	●飼料原料用製品の管理方法の見直しならびに運用と改善、自社物流管理規程の運用、「食品安全・品質マネジメントシステム」データベースの見える化、工場での継続的改善によるクレーム数削減と製造不良削減 ●車両管理システム導入、建屋入室管理等導入、重点箇所対策実施 ●新製品開発、海外事業活動支援 ●グループ会社製品安全情報共有化システム導入
②公正な企業活動	●コンプライアンス委員会を定期的に開催し、社内体制の整備、啓発を行います。 ●社会環境の変化や法改正に対して、社内におけるルール改正や体制整備を迅速に行います。	●コンプライアンス社内体制の推進 ●交通安全施策の推進
③人権尊重	●社員がイキイキと働く会社を目指し、エンゲージメントサーベイを定期的に実施するとともに、改善施策を全社で取り組みます。 ●社員教育の仕組みを充実させ、社員の成長を支援します。 ●年齢や性別にかかわらず、多様な人材が活躍できる環境の整備に努めます。	●ワーク・ライフ・バランス向上のために毎週金曜日にノー残業デー実施 ●語学留学制度を新設
④環境への配慮	●中長期的な環境目標を定め、目標達成に向けた施策を推進します。 ●社員への環境意識向上のため、地球温暖化防止など環境教育を継続的に行います。	●地球温暖化防止対策の推進 ●ISO14001、eco検定を柱とした環境教育実施
⑤社会への貢献	●食育に貢献する料理教室などの取り組みを継続的に開催します。 ●地域社会への貢献施策として、地域イベントやNPOや学校などの団体を支援協賛します。	●地域社会への協賛・支援推進 ●食育活動の推進
⑥ステークホルダーとの対話・情報開示	●ホームページや決算説明会などを通じて、透明性が高くタイムリーな情報公開に努めます。	●ステークホルダーとの関係構築、強化 ●業界紙を通じた広報活動 ●社内広報の強化

昭和産業グループ CSR 行動規範

● 昭和産業グループ CSR 行動規範

昭和産業グループは、「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」ことにより、あらゆるステークホルダーから信頼を得られるよう、CSR行動規範を定め、企業の社会的責任を果たしていきます。

❶安心・安全で高品質な製品の提供

すべてのお客様に安全で高品質な製品・商品を提供することを通じて、昭和産業グループに対する安心の向上を図ります。また、製品の開発と提供を通じて、新しい価値の創造を行い、お客様とともに成長するよう努めます。

❷公正な企業活動

企業市民としての自覚を持ち、コンプライアンスの精神に則った健全な企業活動による収益の追求を通じて、昭和産業グループの継続的な発展に努めます。

❸人権尊重

昭和産業グループのあらゆる企業活動において人権を損なう行為を排除するとともに、社員一人ひとりの多様なる個性・人格・能力を尊重し、チャレンジ精神溢れる企業風土を形成します。

❹環境への配慮

企業活動から生じる環境への影響を認識し、地球環境の保全や資源循環型の持続可能な社会形成への寄与に努めます。

❺社会への貢献

企業市民としての役割を自覚し、企業としての社会的な責任を果たすことを通じて、健全で豊かな社会の発展に寄与するように努めるとともに、社員各人の社会貢献活動を積極的にサポートします。

❻ステークホルダーとの対話・情報開示

昭和産業グループの企業活動にかかわる情報を適時・適正に公開するとともに、ステークホルダーとの対話を通じて、透明性の高い企業活動に努めます。

評価の基準：達成○　ほぼ達成△　未達成×

2013年度の実績	評価	2014年度の活動目標
●昭和産業グループ全体のCSR委員会を1回開催 ●リスクマネジメント委員会を1回開催 ●「海外危機管理マニュアル」制定	○	●各委員会の活動推進体制強化
●飼料原料用製品の製造工程をハザード分析し管理方法を見直した、バルク品の物流業者の採用・承認基準案を作成し新規業者を評価し改善後採用、安全にかかわる文書・手順が製造現場で確認しやすいシステムを導入 ●工場構内・工場建屋内へ許可者以外が入れない仕組みを導入、順次対策を強化を実施、合わせてグループ会社に展開中 ●新製品開発・海外事業活動における品質向上を継続的に支援実施 ●グループ会社情報共有化システムを導入し、2014年度から運用開始	○	●検証活動の充実による継続的改善 ●工場構内、工場建屋内へのアクセス制限の強化、重点箇所の品質保証カメラの設置、グループ会社のフードディフェンスプログラムの強化 ●新製品開発、海外事業活動の継続的支援 ●グループ会社の製品安全情報共有システムの活用とPRP監査によるグループ連携の強化
●「独占禁止法マニュアル」改訂 ●「下請法マニュアル」制定 ●「車両管理規程」改訂 ●ドライブレコーダー導入検討（一部テスト導入）	○	●コンプライアンス遵守のための取り組み継続 ●交通安全施策による交通事故の削減
●毎週金曜日にノー残業デー実施 ●3ケ月間の語学留学制を新設し、2名をイギリスホームステイに派遣	○	●エンゲージメントサーベイ実施 ●残業削減の取り組みを継続的に実施 ●１年間の北米研修、短期語学研修を実施 ●年休取得率向上施策を実施
●二酸化炭素排出原単位において2003年度比6%削減（1990年度比1%削減） ●廃棄物再資源化率95%以上達成　●食品廃棄物の再生実施率95%以上達成 ●ISO14001内部環境監査員レベルアップ研修実施12名受講 ●サイト内部環境監査員レベルアップ研修実施32名受講・サイト内部環境監査員養成研修実施19名受講 ●eco検定18名合格　●クールビズ・ウォームビズの実施	○	●地球温暖化防止対策の推進 ●ISO14001、eco検定を柱とした環境教育実施
●地域清掃活動11件 ●地域行事支援28件 ●食育活動11件、参加人数延べ373名 （グループ会社との連携による食育活動1件）	○	●地域社会への協賛、支援推進 ●昭和産業らしい活動の推進
●リリースなどによる迅速な情報開示　●IR決算説明会・個別IR活動の実施 ●社外広報の強化（記者工場見学会実施・TV取材等） ●社内広報の強化（社内報の活用など） ●企業ブランド戦略の再構築	○	●ステークホルダーとの関係強化（企業ブランド戦略の継続実施など） ●社内外広報の強化

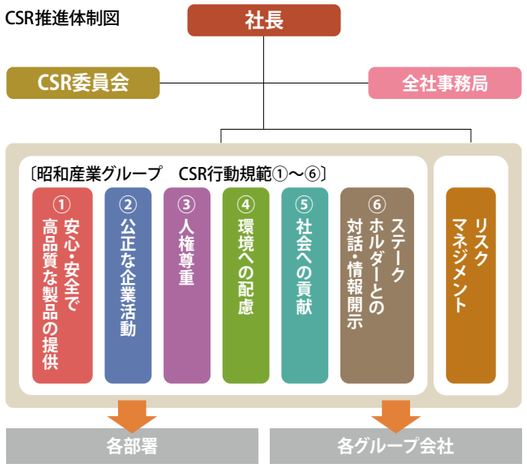
CSR推進体制

昭和産業グループでは、CSR委員会を設置し、「コンプライアンスの徹底」「製品安全」「環境活動」「社会貢献活動」「リスク対策」などのCSR活動を、CSR推進部が全社事務局として包括的に推進しています。

CSRに関する各課題に対しては、それぞれの対策を担当する委員会やプロジェクトチームで施策や方針の検討が行われ、実行に移されます。CSR委員会では、すべての部署から委員が選出されており、このCSR委員を通じて、各部署へCSRに関する啓発を行うとともに活動を推進しています。

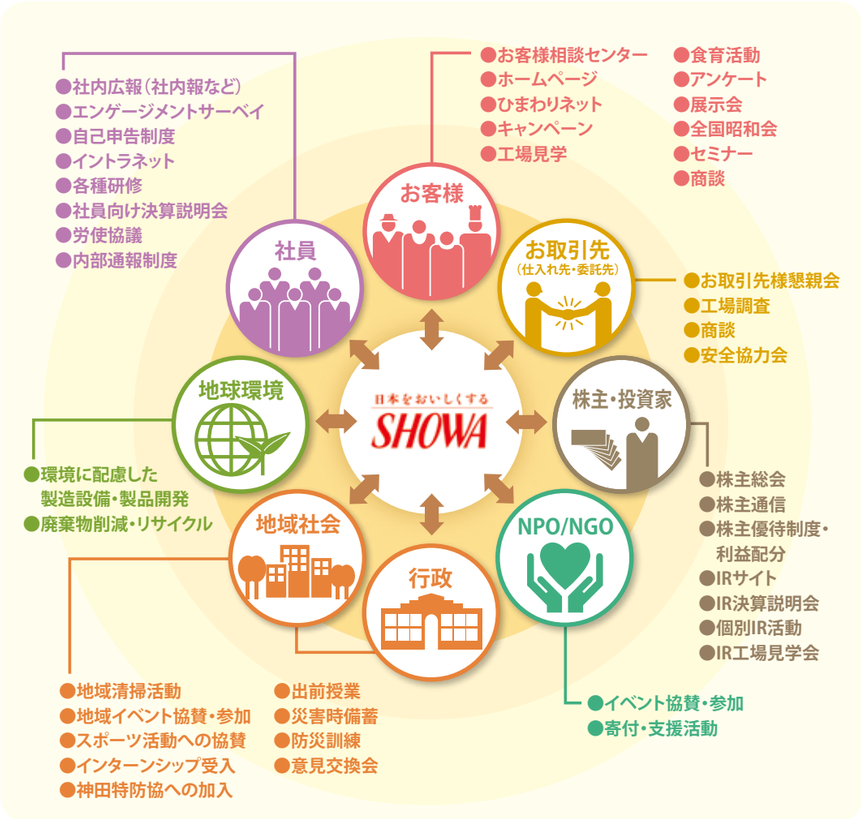
また「中期経営計画12-16」において、「CSR経営の推進」を基本戦略の一つに掲げています。この5ケ年間の「中期経営計画12-16」と連動して推進するために、CSR活動方針を定めました。昭和産業グループCSR行動規範に掲げる6つの課題に加え、その取り組み全体を管理するCSRマネジメントの7つの課題について、全17項目からなる活動方針を掲げています。

CSR推進体制図



ステークホルダーとのコミュニケーション

昭和産業グループは「食」に関する幅広い事業を通して「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」とともに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通して、社会との共生を目指していきたいと考えています。



コーポレート・ガバナンス

経営の透明性を高めるとともに、信頼される企業を目指します

● 基本的な考え方

昭和産業グループでは、経営環境の急激な変化に速やかに対応できる体制を確立し、また経営の透明性をより高めるために、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な課題と位置付けています。

● コーポレート・ガバナンスの体制

取締役会は、業務執行における重要な意思決定を司り、取締役7名・監査役4名（うち、2名は社外監査役）の参加によって、原則月に1回開催しています。また、取締役会メンバーに加え、全執行役員が参加する経営役員会を原則月に1回、監査役が参加する監査役会を原則月に1回開催しています。

さらに、原則月に2回開催している経営会議は、社長・専務取締役・常務取締役及び常勤監査役で構成し、経営に関する重要な案件について、十分な検討を行っています。

また、意思決定の迅速化と経営効率を高めることを目的として、業務の執行に専念する執行役員制度を導入しており、執行役員は10名で構成しています。（2014年6月末日現在）

● 役員報酬、監査役報酬

昭和産業では、役員報酬等に関する規程を定め、世間水準、従業員給与及び会社業績等を考慮し、職責に応じた役員報酬額を決定しています。

2013年度に取締役及び監査役に対して支払った報酬などの額は、取締役8名に328百万円、監査役4名に68百万円（うち社外監査役2名に18百万円）です。

● 監査体制の状況

監査役監査については、監査役会が定めた監査方針、業務の分担などに従って行っています。また、監査役は、取締役会その他重要な会議に出席するほか、取締役などから営業報告を聴取するなどしており、取締役の職務監査が十分にできる体制となっています。

昭和産業グループの内部監査に関しては、業務監査部を設置しています。業務監査部では、昭和産業グループの企業活動が、経営目標達成のために適法適正かつ効率的に行われるよう、業務の遂行状況及び内部統制の状況について監査し、改善の勧告、改善案の提示、改善状況の確認を行っています。

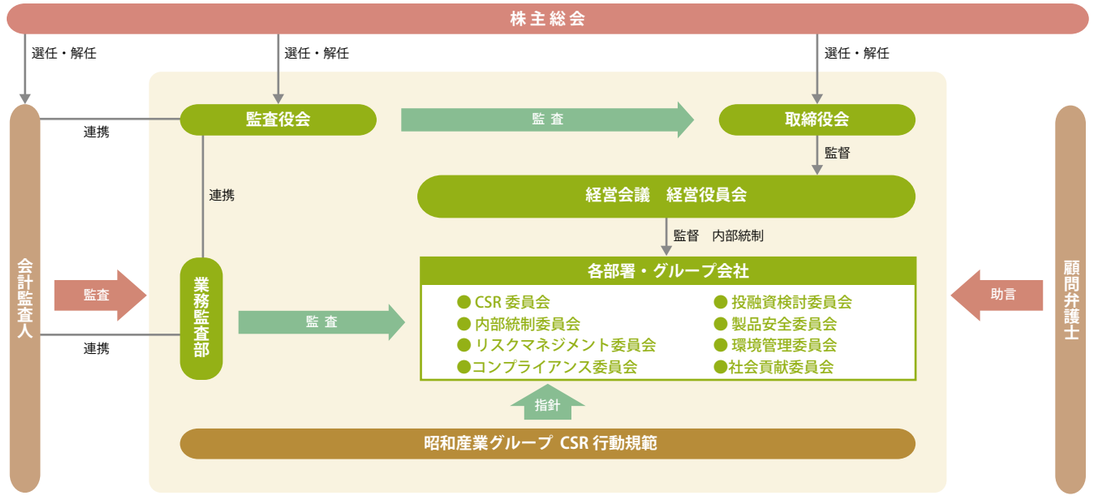
● 内部統制

昭和産業では、2006年5月に定めた「内部統制システム構築に関する基本方針」のもと、内部統制システムを運用しています。

内部統制システムの構築により、リスクマネジメント体制の整備、コンプライアンスの徹底、業務プロセスの明確化による透明性や効率性の向上など、企業経営全般において財務報告の信頼性を確保するとともに、社会的に信頼される企業を目指して企業の責任を果たしていきます。

内部統制監査の始まった2008年度以降2013年度まで、新日本有限責任監査法人による監査の結果、財務報告にかかわる内部統制は有効と判断されています。

コーポレート・ガバナンス体制図



リスクマネジメント

事業におけるリスクに適切かつ迅速に対応していくことで、持続的な発展を目指します

リスクマネジメント基本方針

昭和産業グループは、企業活動のあらゆる場面におけるリスクを継続的に分析し、社会、環境及び企業経営に対して大きな影響を及ぼすリスクに適切かつ迅速に対処することで、社会から信頼の得られる企業グループとして、持続的に発展していくことを目指します。

- リスクを定期的に分析し、対応施策を適切に実施します。
- 重大なリスクに対しては、対応組織を定め、その予防施策を計画的に実施します。
- 危機発生の際は、対応組織を編成し、人命救助、環境保護を最優先に行います。

● リスクマネジメント体制

昭和産業グループでは、企業経営に対する重大なリスクに適切かつ迅速に対応するために、リスクマネジメント委員会を設置しています。リスク情報の収集と分析を行うとともに、その予防と緊急時の対応策を整備し、昭和産業グループ全体のリスクを総括的に管理しています。また、緊急事態が発生した際の対応については、その連絡体制・行動指針などを規程によって明確にしています。

リスクマネジメント委員会

経営に重大な影響を及ぼす可能性があるリスク

● 穀物原料調達

小麦、大豆、トウモロコシなどの穀物原料の調達コストは、穀物相場、為替相場、輸送運賃などの変動の影響を受けます。

● 製品安全

製品の安全には設備投資や組織整備など万全の体制を構築していますが、食に関する社会的事件や病気の発生などの影響を受ける可能性があります。

● 大規模災害

耐震補強や訓練など災害対策を講じていますが、想定以上の大規模災害が発生した場合に被害を受ける可能性があります。

● 情報管理

ウィルス対策やシステム運用体制の整備を継続的に行っていますが、万一想定外のウィルスや不正アクセスなどがあった場合に被害を受ける可能性があります。

● 資産運用

退職給付費用、退職給付債務の運用や、当社の保有している株式は、社会情勢などの変化の影響を受け、当社の財政状態に影響を与えることが考えられます。

● パンデミック※

BCPなどにより、世界的な感染症拡大への対応方法を定めていますが、予想を超えた規模でのパンデミックが発生した場合に経営成績などに影響を受ける可能性があります。

※パンデミック：感染症等の世界的、広域的な流行のことです。

● BCP（事業継続計画）マニュアル

BCPとは、自然災害などの緊急事態に備え、平常時に行うべき活動や、緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

昭和産業のBCPでは以下の項目について定めています。

1. 基本方針
2. BCP 全般の運営体制
3. 非常時の対策規程及び組織体制
4. 緊急連絡体制・安否確認
5. 災害備蓄
6. IT システム及びバックアップ
7. 保険情報
8. 大規模地震対策
9. パンデミック対策（新型インフルエンザなど）

● 海外危機管理マニュアルの制定

海外における役員及び社員等の安全を確保し、緊急事態が発生した場合には迅速な組織的対応を図るため、「リスクマネジメント基本方針」に基づき2014年2月に「海外危機管理マニュアル」を制定しました。

本マニュアルでは、以下の項目について定めています。

1. 基本方針
2. 適用範囲
3. 通常時の安全管理体制
4. 被害等が発生した場合の体制
5. 海外危機対策本部
6. 渡航者の連絡窓口等
7. グループ会社との関係
8. 本マニュアルの改訂

安心・安全で高品質な製品の提供

すべてのお客様に安心・安全で高品質な製品を提供します

食品安全・品質基本方針

① 昭和産業グループが製造・販売を行うすべての製品・商品について、食品衛生法などの関係法令を遵守します。
② 製品の安全性を確保するために、常にお客様の視点に立ち、製造設備・機器の衛生管理の向上と信頼性の確保に努め、HACCP 管理※1に基づき食品汚染等の危害発生を防止します。
③ 不測の事態が生じた場合は、お客様の安全を最優先に考えて、危機管理対応ルールに則った、迅速かつ透明性の高い行動を取ります。
④ 原材料の入庫から製品の製造・出荷・流通に至る、全段階での品質管理の向上と、トレーサビリティーの確保を図り、製品事故の未然防止に努めます。
⑤ 市場やお客様のニーズを捉え、昭和産業グループの特徴を活かした価値の高い製品の開発に注力します。

食品安全・品質への取り組み

● 食品安全・品質マネジメントシステム

お客様に安心・安全で高品質な製品を提供するために、昭和産業では、「非リスク3原則」の考え方を基本とし、原料の調達段階から、出荷までの工程での各種基準の見直しや製造環境のレベル向上、フードディフェンスの強化を目指した活動をしています。

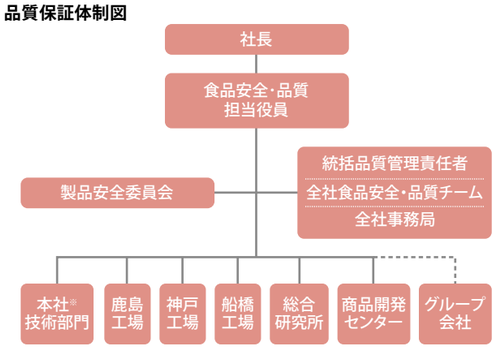
『非リスク3原則』とは……

原則① 原材料の調達段階では…「問題のあるものを持ち込まない」
原則② 工場の製造段階では……「問題のある製品を作らない」
原則③ 出荷の段階では……「問題のある製品を持ち出さない」

この3原則を確実に実行し、より良い仕組みとしていくために、「食品安全・品質マネジメントシステム」を運用しています。

これは、「HACCP※1」を柱として「ISO22000※2」「ISO9001※3」「AIB フードセーフティシステム※4」を包括した当社独自の仕組みです。原則①から原則③までのすべての段階にかかわる組織・人、原料から製品までの流れを整理して、安全な製品を作るために重要なポイントを見えるようにしました。そして、その重要ポイントを確実に管理することで、お客様に安全な製品をお届けします。

品質保証体制図



※本社技術部門：生産技術部、品質保証部、ロジスティクス部（購買課、企画・管理課）

● 製品回収体制

昭和産業では、非リスク3原則に基づいてお客様に製品をお届けしていますが、不測の事態によって安心・安全の懸念が生じる場合に備えて、製品回収の仕組みを構築しています。

製品安全にかかわる不測の事態が起きた場合には、緊急製品安全委員会を開き、対応を検討します。そして、お客様への健康被害が想定される時や法令違反が疑われる場合は、製品の回収を決定し、社告やホームページなどでお客様にお知らせするとともに、行政やマスコミに連絡を行う体制を取っています。

● 外部認証などへの取り組み状況

製品の安心・安全への取り組みの信頼性を高め、さらにレベルアップしていくために、各種の外部認証を取得しています。また、昭和産業と各グループ会社の連携を深めながら、グループとしての品質保証の仕組みの向上を推進しています。

昭和産業	認証取得・国際的基準への取組状況
鹿島工場	ISO22000 AIB フードセーフティシステム（製粉工場、たん白工場、潮来ミックス工場）、FSSC22000（ぶどう糖工場*）
神戸工場	ISO22000 AIB フードセーフティシステム（製粉工場、ミックス工場）
船橋工場	ISO22000 AIB フードセーフティシステム（製粉工場、ミックス工場、パスタ工場）
総合研究所	ISO22000
商品開発センター	ISO22000
本社技術部門	ISO22000

グループ会社	認証取得・国際的基準への取組状況
敷島スターチ（株）	ISO22000、FSSC22000（*）
奥本製粉（株）	ISO22000 AIB フードセーフティシステム（製粉工場、ミックス第一工場、二色工場、パスタ工場）
木田製粉（株）	ISO22000、AIB フードセーフティシステム
（株）内外製粉	ISO22000、AIB フードセーフティシステム
昭和鶏卵（株）	ISO9001（三芳事業所）
昭和冷凍食品（株）	ISO22000
（株）ショウレイ	ISO9001
田中製餡（株）	ISO22000
東葛食品（株）	ISO9001

*特定の工程
※認証制度等の説明はP16に記載しています。

非リスク3原則に基づく取り組み

非リスク3原則の考え方に基づいて、安心・安全の確保に努めています

原則1 問題のあるものを持ち込まない

● 原材料の受け入れ時の取り組み

安全な原料を使うための取り組みとして、主原料である穀物や油糧種子などは、生産地の生産状況についての情報収集や、原料の特徴に応じたモニタリング検査の実施などを継続的に行うことで、安全性を確認する仕組みを運用しています。

また、調味料、でん粉、添加物などの原料については、品質保証書を精査して安全・品質の確認を行うとともに、原料の製造工場の現場調査を通して、昭和産業の安全にかかわる考え方の理解を得た上で、改善に取り組んでいただいています。また、容器包装資材についても、同様の考え方で確認しています。

これらの活動を継続的に行うことで、さらなる安心・安全の確保に努めていきます。

● フードディフェンス（食品防御）の取り組み

人による意図的な食品事故を防ぐ取り組みとして、フードディフェンスプログラムを構築しています。工場構内や工場の建屋内へ許可された人、車以外は入れないように、入口の最少化やアクセス制限をするためのシステムの導入をしています。

● 放射性物質に関する安全対策

安全な原料を使用し、製造や保管時の汚染がないように管理することで放射性物質に関わる製品の安全性を確保しています。これまでに、製造工程以降で汚染がないことを確認しています。原料については、原料供給者に汚染のないことを確認して、汚染リスクのある原料を工場内に受け入れない仕組みを運用しています。また、放射性物質検出器による検査体制を整え、安全の確保に努めています。

放射性物質検出器

● 食中毒・感染症に対する取り組み

昭和産業とグループ企業では、製品が食中毒菌等に汚染されることのないよう、工場勤務者や、工場へ入場の可能性のある社員を対象に、定期的に保菌検査を実施しています。また、食中毒やノロウイルス等の感染症にかかった社員が食品製造にかかわることのないよう、保菌や疑わしい症状が認められた場合のルールを決めて、運用しています。工場来場者に対しても来場時に健康状態を確認しています。

原則2 問題のある製品を作らない

● HACCPやAIBの考え方の導入

昭和産業では、「食品安全・品質マネジメントシステム」の柱として、「HACCP」による管理を製造現場に導入しています。また、AIBなどの考え方に従って、製造現場の従業員の衛生等、日常管理の重要性にも着目して製造工程の管理を行っています。

原料から製品までのすべての工程や作業の一つひとつを現場で確認して、安全な原料から安全な製品を製造するまでの手順を整備します。この手順に沿って、間違いなく製造を進めることで、より一層安全で高品質な製品を製造することができます。

● 監査活動

「食品安全・品質マネジメントシステム」では、現場重視の監査活動を進めています。工程図や手順書を見ながら現場を回り、工程の管理が手順通り進められているか、記録はとられているか、記録の内容に問題はないか、そして、設計通り安全で高品質の製品が、安定して製造されているか、細やかに目を配り、厳しくチェックします。

問題点が見つかった場合は、必ず原因を突き止め、仕組みを改善します。このような活動を通して、「食品安全・品質マネジメントシステム」の品質も向上させています。

● 食品表示に対する取り組み

製品に正しい表示を行い、原材料等の情報を正しくお客様に伝えるため、関連する業務の従事者に食品表示検定の受験を推奨しています。その結果、2013年度の食品表示検定中級合格者数が全国1位となり、食品表示検定協会より、「食品表示に熱心に取り組んでいる団体」として表彰されました。

食品表示検定協会からの賞状とトロフィー

● グループ会社品質管理技術研修会

昭和産業グループとして、安全な製品をお客様に届けるため、食品製造を行っているグループ会社の品質管理担当者が集まる研修会を開催しています。本年度は、参加者全員で昭和産業船橋工場の製造・品質管理の現場を確認後、非リスク三原則に基づく意見交換や、情報交換を行いました。

グループ会社品質管理技術研修会

● 工場設備における取り組み

昭和産業は、製品の安心・安全を実現するための設備充実に力を注いでいます。金属検出機、X 線検出機、色差選別機などによる異物チェック、印字検査機による日付チェックなど徹底した製造管理を行っています。

金属検出機

X 線検出機

印字検査機

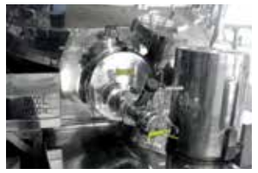
原則3 問題のある製品を持ち出さない

● 物流での取り組み

昭和産業の製品は工場から出荷された後に、流通卸会社の倉庫で保管されます。1998年より継続的に、自社及び流通卸会社の倉庫の管理状況を品質面から調査して、不具合のある倉庫に対しては改善を申し入れています。

● 出荷製品の安全対策

ローリー車・専用船で出荷する製品は、工場を出てからお客様に納品するまでの間に異物混入等の事故が起こらないように、タンクに施錠または封印などの安全対策を徹底しています。また、異物が混入しにくい構造のローリー車を導入したり、積み下ろし時の作業時には専用の作業着を着用するなど、異物混入防止対策を取っています。


ローリー車の封印（ホース取り付け口）

ローリー車の封印
（ホース取り付け口、外カバー）

※1…HACCP（Hazard Analysis Critical Control Point）管理：
原料の入荷から製造・出荷までのすべての工程において、重要管理点を特定して、そのポイントを継続的に監視し、ヒトに危害を与える製品の出荷を未然に防ぐシステムです。

※2…ISO22000：
安全な食品の生産、流通、販売を目的とした食品安全マネジメントシステムの国際規格です。

※3…ISO9001：
品質マネジメントシステムの国際規格です。

※4…AIB（American Institute of Baking）フードセーフティシステム：
安全な食品を製造するためのガイドラインであるGMP（適正製造規範）を重視した「AIB食品安全統合基準」に則り、外部監査員が工場の現場を中心に検査を行う仕組みです。

※5…FSSC（Food Safety System Certification）22000：
ISO22000をベースに、食品安全を担保するために順守すべき事項をより明確化した食品安全の国際規格です。

担当者より

昭和冷凍食品株式会社
品質保証室
小山 良子

農水産物原料を多く扱う弊社品質保証室では、非リスク3原則のうち「問題のあるものを持ち込まない」ことを重視し原料管理を行っています。新規原料は、昨年約60品を採用しており、承認に至るまで原料メーカーとの書類のやり取りはとても大変でした。既存原料については、異物混入等が発生した原料メーカーに対して連絡及び是正報告を依頼しています。また、年間のリスク評価で必要があれば工場監査も実施するなど、限られた室員で日々頑張っています。

公正な企業活動

公正で透明性の高い企業経営を徹底します

コンプライアンス基本方針

①公正な市場取引

(1) 昭和産業グループのすべての企業活動において、関係法令を遵守し、公正で自由な競争に基づいた取引を行います。

(2) 職務に関して知り得た非公開情報に基づく、株式等の不公正取引（インサイダー取引）を行いません。

(3) 仕入先・取引先に対しては公平かつ誠実に接し、優位な立場に基づいた取引の強要などを行いません。

(4) 社員と私的な関係のある企業を取引先に指定したり、会社と競合する利益相反行為に関わったりするなど、職務上の権限を濫用した不公正な行為を行いません。

(5) 取引先や関係機関・団体等との交際に関しては、社会通念に則った節度を保ちます。

②適切な情報管理・知的財産権の保護

(1) 会社の秘密情報・顧客情報、第三者から開示を受けた秘密情報などを適切に管理し、業務上の目的以外に使用せず、第三者に漏洩しません。

(2) 社内外を問わず、個人情報の不正な取得や使用、及び外部流出を防止します。

(3) 知的財産権（特許、商標、著作〈含ソフトウエア〉など）の保護に努め、不正使用や権利の侵害をしません。

③政治・行政との関係

政治家（政治団体）・行政（公務員）に対しては、関連法令・社会通念に則った適切な関係を保ちます。

④反社会的勢力との関係遮断

反社会的勢力及び反社会的勢力と関係ある団体や企業などとは、いかなる取引も行わず、利益の供与は一切行いません。

●コンプライアンスの徹底

コンプライアンスを徹底するために、定期的にコンプライアンス委員会を開催し、課題の検討、取り組み施策の推進、全社への啓発を行っています。2013年度は、「独占禁止法マニュアル第2版」及び「下請法マニュアル」を制定しました。今後も各種コンプライアンス マニュアルを充実させていく予定です。

また、コンプライアンス基本方針を含むCSR行動規範を記載した「CSRカード」を全グループ社員に配布するとともに、イントラネットにコンプライアンスに関する情報を掲載するなどして社員への啓発を行っています。

コンプライアンス マニュアル

● 独占禁止法への取り組み

昭和産業及び子会社の敷島スターチ株式会社は、独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会による立入検査を受け、以降同委員会による調査に全面的に協力してまいりましたが、独占禁止法に基づく排除措置命令及び課徴金納付命令を受けました。このような事態を受け、「独占禁止法マニュアル」を改訂し、全役員・社員に配布するとともに、外部講師による講習会も開催するなど啓発活動に注力し、独占禁止法遵守への取り組みを積極的に推進しました。今後も、公正で自由な競争に基づいた取引の推進、優越的な地位を濫用した取引の強要などを防止するため、さまざまな施策に取り組みます。

● 消費税転嫁対策特別措置法に関する講演会の開催

消費税率の引き上げに伴い、2013年10月1日に消費税転嫁対策特別措置法が施行されました。

そこで、競争法分野における豊富な実績を有する弁護士を講師に迎え、マネージャー層を対象に、消費税転嫁対策特別措置法に関する講演会を開催するなど、公正な事業活動の実現に向けた取り組みを推進しています。

● 情報セキュリティの対策

昭和産業では、「情報セキュリティポリシー」を定め、情報管理の徹底を図っています。日常の管理においては、社内パソコンの持ち出しを禁止するとともに、パソコンごとにパスワードを設定し、ネットワークへの外部侵入防止策を講じることで情報の漏洩を防止しています。

また、全事業所に個人情報の管理責任者を置き、個人情報の取得・保管・利用・廃棄が適正に行われるよう管理しています。「個人情報対応マニュアル」「個人情報保護法Q&A」「個人情報保護法に関する公表事項」を作成し、社員に公開しています。グループ会社に対しても個人情報保護法への対応を指示し、体制強化に努めています。

● 交通安全施策の推進

企業の交通安全に対する法的責任・社会的責任の重要性は、近年ますます高まっています。

昭和産業は、昨年、「車両管理規程」を改正するとともに、付帯規程も新たに制定するなど、全社的な交通安全を推進する体制を強化しました。

また、「交通安全委員会」を開催し、来期営業車両にドライブレコーダーの試験導入を決定するなど、社員の一人ひとりの交通安全意識向上を図るさまざまな施策を推進しています。

交通安全委員会

● 知的財産権への取り組み

知的財産権は経営における重要な資産であり、長期的視点に基づいた知的財産管理の重要性がますます高まっています。昭和産業では、知的財産権の保護に努め、不正使用や権利の侵害を防止するための体制を整備しています。

● 反社会的勢力との関係遮断

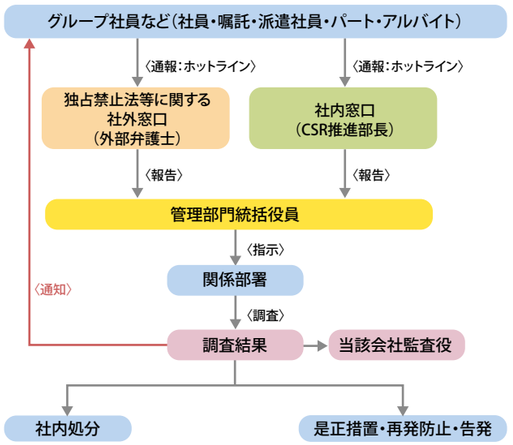
昭和産業は、反社会的勢力及び反社会的勢力と関係のある団体や企業とはいかなる取引も行わず、利益供与は一切行いません。

また、反社会的勢力による不当要求が認められた場合には、警察機関や弁護士等の専門家と連携しつつ組織的に対応します。

● 内部通報制度の整備

昭和産業は、「昭和産業グループ内部通報規程」を制定し通報者の保護や通報処理体制を定めるとともに、組織的または個人的な法令違反行為などに関する社員などからの相談・通報窓口（ホットライン）を設置しています。法令違反行為の該当確認などについての相談及び通報窓口をCSR推進部長とし、特に、独占禁止法等に抵触する可能性のある情報を知得した場合の通報窓口として、2013年10月1日付で顧問弁護士による社外窓口を新設しました。昭和産業グループ全体における不正行為などの早期発見・是正を図ることで、コンプライアンス経営の強化につなげています。また、啓発活動を行い内部通報制度の周知徹底を図っています。2013年度は、2件の通報があり、調査及び是正措置を実施しました。

内部通報体制図



人権尊重（社員とのかかわり）

社員の多様なる個性を尊重し、チャレンジ精神溢れる企業風土を形成します

人権に関する取り組み基本方針

① あらゆる差別（性別、国籍、人種、宗教、信条、障がいなど）や偏見を排除し、個人の能力と個性を尊重します。
② 各人の能力と成果に対する公正な評価に努めるとともに、質的向上のための研鑽・相互啓発に努めます。
③ 安全で健康な、働きやすい職場環境の維持改善に努めます。
④ 社員一人ひとりの多様性を尊重し、挑戦意欲を引き出します。
⑤ 人権尊重に関する国際的な合意事項や基準を理解し、児童労働や強制労働を排除します。

社員が働きやすい環境の整備

仕事と私生活のバランス、多様な人材それぞれの労働環境、社員が安全に働ける環境など、さまざまな制度や施策を実施しています。

● 再雇用制度

昭和産業では、定年退職者の豊かな業務経験を活かすとともに、60歳以降の雇用の場を提供することを目的とした再雇用制度を導入し、引き続き勤務を希望する社員が、イキイキとした生活を送ることを目指しています。2013年度中の新たな再雇用者数は13名、2014年3月現在の再雇用者数は66名です。

● 障がい者雇用制度

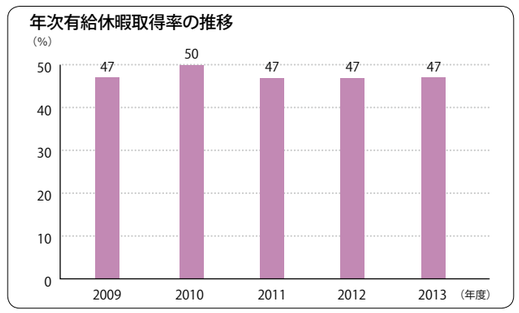
障がい者の方が働きがいを持って日々の仕事に取り組んでいけるよう、また幅広い職種で活躍してもらえるよう、一人ひとりに適した職場へ配属しています。

2014年3月現在、昭和産業で働いている障がい者数は21名、障がい者雇用率は2%です。

● 連続休暇（計画年休）制度

昭和産業では、2006年度より連続休暇（計画年休）制度を導入しています。これは、社員が年度のはじめに2日以上の連続した有給休暇の取得計画を提出することで休暇を取りやすくし、仕事と私生活のバランスを図るための取り組みです。同時に、職場においてメンバー相互に協力し合える体制を整えることも目指しています。

連続休暇（計画年休）制度の導入と定着により、年次有給休暇の取得率向上に継続して取り組んでいます。



● カムバック制度

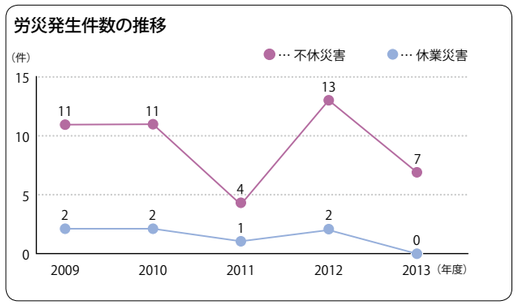
昭和産業では、2008年10月より、結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤などを理由に退職した社員を再雇用する「カムバック制度」を導入しています。過去の在籍勤務年数が1年以上ある社員が対象となり、本人が希望し、マッチした職場がある場合に制度の適用となります。入社後半年間は契約社員、その後は正社員での処遇となります。これまでに1名を採用しました。

● 残業削減の取り組み

効率的に働くことで残業時間を減らす取り組みを労働組合と共同して推進しています。2013年度より、毎週金曜日をノー残業デーとして一層の残業削減に取り組んでいます。

● 労働安全衛生

業務災害防止については、ヒヤリハット分析や危険予知訓練を行うほか、事業所長も参加する安全巡視の実施、作業手順の徹底や各事業所での事故情報の共有化などに取り組んでいます。



● 安全運転講習

営業職社員を対象に、専門家による安全運転に関する講習会を定期的に実施しています。また、新入社員には新入社員研修の一環として教習所での実地講習会を実施しています。その他、積雪地域を担当する営業職社員を対象とする雪道運転講習会も実施し、事故防止に努めています。

● メンタルヘルス

メンタルヘルスに関する情報を社内イントラネットや社内報で紹介するとともに、社員がどのようなことでも相談できるように、社外相談窓口も設置しています。2013年度には、新たに「心の健康づくり計画」を策定しました。

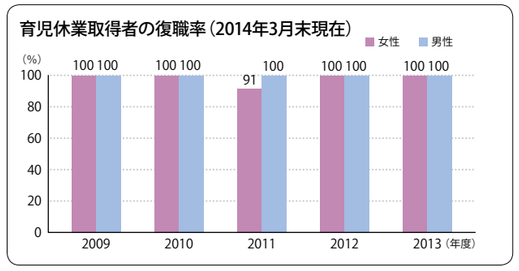
【心の健康づくり計画（抜粋）】
昭和産業グループのあらゆる企業活動において人権を損なう行為を排除するとともに、社員一人ひとりの多様なる個性・人格・能力を尊重し、チャレンジ精神溢れる企業風土を形成します。
①心の健康問題を発生させない風土づくりに努めます。
②円滑なコミュニケーションの推進により活気ある職場づくりを行います。
③あらゆるハラスメントを排除し、社員がイキイキと働ける環境をつくります。

● 労働組合との関係

昭和産業では、労働組合との定期的な会合や労使間交渉を行うことで、相互の意見を取り入れながら、労働環境に関する諸課題に対処しています。2013年度は、労使協同でノー残業デーの啓発を行うなどワーク・ライフ・バランスの推進に取り組みました。

● 育児休業者の復職状況

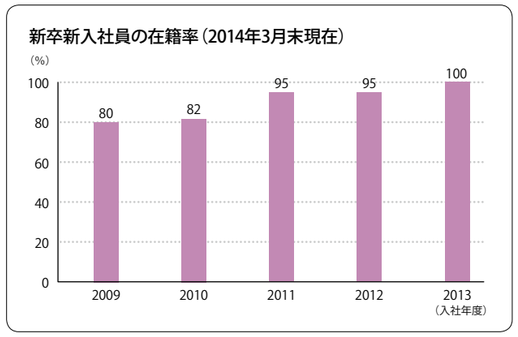
仕事と私生活を両立させるための施策として、育児休業制度などの仕組みとともに、復職後の環境整備や風土作りにも取り組んでいます。その結果、育児休業者の復職率は高い水準で推移し、女性の退職者も減少しています。



● 終身雇用制度を維持する企業風土

昭和産業では、終身雇用を維持することを前提とした年功型の賃金体系をベースとして、それに成果に応じた報酬体系をバランス良く両立させた人事制度を運用しています。

社員が定年退職まで、充実して仕事ができる環境を整備することで昭和産業の持つ幅広い食品分野での知識・経験・専門性を高め、社会に貢献し、社員一人ひとりが成長できる会社を目指しています。



●「次世代育成支援対策推進法」の「行動計画」実施

昭和産業は、2回目の行動計画（2007年4月1日～2011年3月31日）の達成により、都道府県労働局長から「次世代認定マーク（くるみん）」を取得し、引き続き3回目の計画を策定し、環境作りに努めています。

男性の育児休業取得も推進しており、2011年度は3名、2012年度は3名、2013年度は1名が取得しました。

計画期間：2011年4月1日～2015年2月28日までの4年間（3回目の計画）
目標内容：
〈目標1〉計画期間内に、社員に対し働き方の見直しや意識改革を図るため、業務効率化や残業削減についての取り組みを実施する
〈目標2〉計画期間内に、出産・育児に関する諸制度の利用促進を図るため、社内制度等を周知する

「次世代認定マーク（くるみん）」

社員の「自律」を支える人事制度

昭和産業の人事制度のキーワードは「自律」です。

昭和産業では、「複線型人事制度」に基づき、社員自らが自分のキャリアを考え、自分で進む道を選択するとともに、「専門スキルの向上と多能化の両立」「社員の自律を尊重した適材適所の配置」「貢献度に応じた処遇の実現」を目指した人事制度により、個々の能力の向上を図っています。

また、経営方針から落とし込んだ個人目標を各人が設定する「目標管理制度」、多岐にわたる部門を持つ昭和産業ならではの、幅広い視野と経験を持った社員を育成するための「自己申告制度」（部門間異動）など、社員の「自律」と挑戦意欲を引き出す人事制度を整えています。

社員を活かし、育てる取り組み

昭和産業では、主な教育体系として「階層別研修」「キャリア開発研修」「昭和塾」「昭和テクノスクール」を実施しています。その他、選抜型研修制度、通信教育制度、海外研修制度、職種別教育研修など、多彩な教育プログラムを揃え、社員の質的向上のための機会の充実に努めています。

● 階層別研修

階層別研修では、「各階層ごとに必要な基礎知識提供」「考え抜く」「新たな気付きを得る」ことを中心に実施しています。それぞれの研修は、人事制度や他のキャリア開発諸施策と連動しており、自分自身及び部下のキャリア開発を行う上での道しるべの役割を果たしています。

● 昭和塾・昭和テクノスクール

昭和産業では、専任の社内講師による定期的な講習会「昭和塾」「昭和テクノスクール」を実施しています。

「昭和塾」は、すべての社員が経営方針を十分に理解し、社会人として必要な知識を学ぶことで、社員一人ひとりの成長と会社の発展を目指すことを目的としています。「昭和テクノスクール」は、多様な穀物を扱う昭和産業ならではの製粉、製油など幅広い事業の製造工程や製品知識などの講習を行っています。

● 海外研修制度

昭和産業では、国際的に活躍できる人材の育成を目的として、2002年度より海外研修制度を導入しています。研修期間は3ケ月から1年間で、中国語や英語等の語学習得が主であるものと、現地の市場調査や原料ビジネスの体験が主であるものがあります。これまでに中国での語学研修に6名、イギリスでの語学研修に2名、カナダでの研修に9名派遣しています。

短期語学留学制度利用者より

商品開発センター
黒田 貢二

12週間のイギリス・オックスフォードでの生活は、日本を、そして自分自身を客観的に見直す良い機会になりました。語学の習得も当然ですが、様々な文化・価値観に触れることで職業観だけでなく人生観にも大きな影響を受けました。
英語に対する苦手意識はだいぶ減り、“テクニック”ではなく“相手に伝えたい想い”が大切だと身をもって経験しました。今後は国内外関係なく、自分の意思を正確に伝えて会社の発展に尽力していきたいと考えています。

ぶどう糖部
近藤 晋介

英語以外にヨーロッパ、南米から来る生徒達の文化、考え方の違いを学べた事、海外に多くの友人が出来た事がこの研修の一番のメリットだと思います。日本の常識が海外では非常識になり、自分の考え方の幅を広げる事ができました。日本人は控えめで他人と同調する方が多いですが、欧米人は全く逆で積極的に自己主張する事が印象に残っています。今後はこの貴重な経験を生かし、会社の発展に寄与していく所存です。

環境への配慮

地球環境の保全や資源循環型の持続可能な社会形成への寄与に努めます

環境基本方針

① 昭和産業グループが適用を受けるすべての環境法令を遵守します。
② 原材料・資材・容器包材などの調達に際しては、その材質や加工工程などに配慮し、環境への影響を小さくすることに努めます。
③ 製品・商品開発に際しては、原材料・資材、製造、流通、消費のすべてにおいてライフサイクルアセスメント※1 に配慮し、環境影響を小さくするように努めます。
④ 昭和産業グループすべての企業活動に伴う、原材料及び包装資源、エネルギー資源などの利用効率の向上を図るとともに、廃棄物の削減と再資源化に努めます。

環境マネジメント

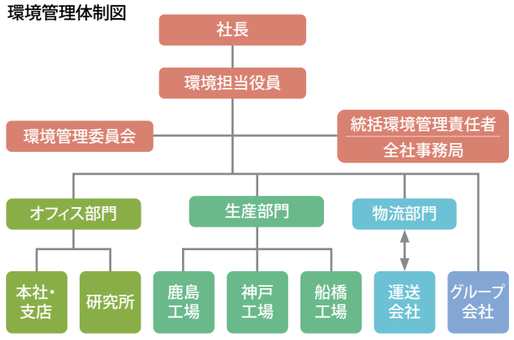
● 環境マネジメントシステム

昭和産業グループの環境対策に関して重要な課題を審議・決定するために「環境管理委員会」を設置しています。

この委員会では、環境基本方針に基づき毎年の環境目標、中長期目標、施策などの決定、環境関連データの管理を行うとともに環境マネジメントシステムが適切に運用されているか確認しています。

また、各工場・研究所では環境マネジメントシステム規格ISO14001の外部認証を取得し、環境負荷低減を図っています。

環境管理体制図

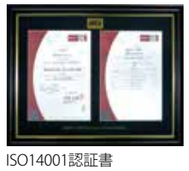


● 外部認証の取得状況

昭和産業グループでは、環境マネジメントシステムの外部認証ISO14001を取得しています。

昭和産業
鹿島工場
神戸工場
船橋工場
総合研究所
商品開発センター

グループ会社
(株)ショウレイ



ISO14001認証書

● ISO14001教育

環境監査員の力量を継続的に向上させるため、毎年内部監査結果やISO14001審査結果を踏まえて、内部監査員のスキルアップ研修を実施しています。2013年度は内部環境監査員各人の監査の見方の整合性を図り、共通した環境監査ができるようにしました。また、サイト内部監査員の養成及びレベルアップ教育も実施しました。

● 環境啓発活動

社員の環境への意識を向上させるため、今年度も環境社会検定試験（eco検定）※2 の受験の推進のほか、定期的に社内啓発ポスター「CSRマラソン」を作成して啓発しています。

WEB eco検定推進企業
http://www.kentei.org/eco/suishin.html

eco検定合格者より

福岡支店
市川 靖子

「eco検定」かわいいネーミングに惹かれ軽い気持ちで受験しました。

しかしいざ勉強をしてみると奥深く、真剣に環境問題を考えるようになりました。

今後はエコピープルとしてより知識を深め、まずは身近な環境問題について上司・同僚と話し、支店において一人ひとりが取り組めることを考えていきたいと思っています。

※1…ライフサイクルアセスメント（LCA）
製品のライフサイクル（原料の採取→製造→加工→運搬→使用→再生→廃棄）のすべての段階で発生する環境への負荷を分析、計算して評価する方法です。

※2…環境社会検定試験（eco検定）
東京商工会議所が創設し、2006年10月から検定試験が実施されています。環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の推進に向けて、基本的な知識を身につけるための検定です。

生産活動と環境への影響

昭和産業では、主要穀物の「小麦」「大豆」「菜種」「トウモロコシ」などを主原料とした食品メーカーとして、小麦粉、プレミックス、植物油、糖化製品など、幅広い食品素材を製造しています。

これらの製品は、鹿島工場、神戸工場、船橋工場で生産しています。生産活動においては使用するエネルギー源（電気、ガス、重油、石炭）や水を低減するために目標を設定し継続的な取り組みを行っています。

INPUT

生産に使用する主な食品原料

- 小麦 504千t
- 菜種 288千t
- 大豆 367千t
- トウモロコシ 282千t

ほかに副原料使用

生産活動に必要な主なもの

- 電気（買電） 118,665千kWh
- ガス（LPG・LNG） 11千t
- 重油 0.23千kl
- 石炭 62千t
- 用水（水道水、工業用水、海水） 3,175千t
- 化学物質（PRTR法対象物質3物質） 0.54千t
- 木質チップ 16千t

主な生産活動

- 製粉事業……小麦
- 油脂事業……大豆・菜種
- ぶどう糖事業……トウモロコシ
- 家庭用食品事業……小麦粉・植物油

主な原料

OUTPUT

お客様にお届けする主な製品

- 小麦粉、ふすま※1……447千t
- 植物油、脱脂大豆、大豆たん白※2、菜種粕……567千t
- コーンスターチ、水あめ、異性化糖※3、ぶどう糖、グルテンフィード※4……306千t
- プレミックス、パスタ……87千t

お客様

- 加工食品メーカー
- 家庭（スーパー、コンビニなど）
- 外食店　ほか
- 飼料メーカー

生産活動から排出される主なもの

- CO_2……230千t　電気、ガス、燃料の使用に伴って発生するCO_2
- 排水……2,276千t　工場からの生産系排水及び管理棟からの生活系排水
- 廃棄物……32千t　事業活動に伴って生じた廃棄物
  （再資源化率……96.5%）　廃棄物をリユース（再使用）、マテリアルリサイクル（再生利用）、サーマルリサイクル（熱回収）により、資材・原料または資源として利用した割合
- 化学物質……0.54千t　大気への排出量

※1…ふすま：
小麦をひいて粉にする時に残る皮です。

※2…大豆たん白：
大豆から取り出したたん白を濃縮、または分離したたん白を主原料とする食品素材です。加工処理により粒状に組織化したものもあります。

※3…異性化糖：
ぶどう糖の一部分を酵素によって果糖に変換したものです。それにより甘みが強くなり、清涼飲料水などに使用されます。

※4…グルテンフィード：
トウモロコシからコーンスターチを製造する際に発生する素材で、主に配合飼料原料に使用されます。

原材料・資材調達における取り組み

昭和産業では、調達する原料、資材、機材が与え得る環境影響を少なくするための指針「グリーン調達指針」を定め、法令に則った調達を推進し、当社の製品が社会に及ぼす環境負荷の低減に努めています。

環境に配慮した製品開発

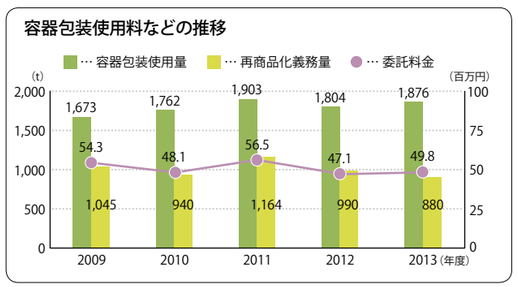
昭和産業グループでは製品開発において環境負荷を低減させる取り組みを行っています。これまでもお客様先で発生する廃棄物削減に貢献するため、各種ライフサイクルアセスメント（LCA）製品の開発に取り組み、2013年度は「家庭用サラダ油（1,000g）」のプラスチックボトル重量を従来の54gから48gに軽量化しました。

開発担当者より

生産技術部
油脂技術グループ
野村 蘭

ハンディボトルは、これまでも軽量化を実施してきましたが、今回は軽量化の限界へのチャレンジに取り組みました。

製造からお客様のご使用までにおいて必要と考えられる強度や保存性を製造適性試験、保管試験、輸送試験、落下試験などで確認しました。特に重要な強度の基準設定については、あらためて見直しをボトルメーカーと協働で実施しました。これからも「環境への配慮」を意識した包装資材の軽量化・簡素化に取り組んでいきたいと考えています。



廃棄物削減・リサイクルの取り組み

廃棄物対策への取り組み目標

①廃棄物の再資源化率を95%以上に維持します。
②食品廃棄物※1の再生利用※2の実施率を95%以上に維持します。

● 廃棄物削減の取り組み

昭和産業では、廃棄物の再資源化率95%以上を目標に掲げ、分別再利用を追求しています。分別ごとの再資源化方法の検討による再資源化率の向上・最終埋立処分量「ゼロ」を目指した取り組みを行っています。

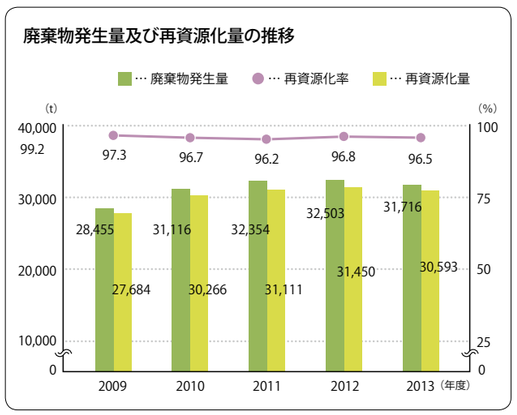
その結果、2013年度の再資源化率は96.5%となりました。

● 食品リサイクルの取り組み

小麦粉や植物油などの製品を製造する際に発生するふすまや脱脂大豆は、食品リサイクル法の定める食品廃棄物に該当しますが、これらは配合飼料原料として再生利用しています。こうした穀物資源を余すことなく利用する取り組みにより、2013年度の食品廃棄物の再生利用率は99.9%となりました。

※1…食品廃棄物：
食品の製造、加工または調理の過程において副次的に得られた物品のうち食用に供することができないものです。

※2…再生利用（量）：
再生利用過程に投入された食品循環資源（飼料、肥料などへの再生利用）の量です。



地球温暖化防止と省エネルギー

温暖化対策への取り組み

昭和産業は、食品生産部門で、2013年度の二酸化炭素（CO_2）排出量原単位において2003年度比6%（世界的な基準年の1990年度比1%）削減しました。

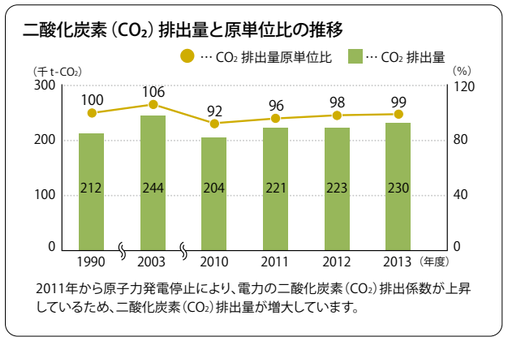
2014年度も食品生産部門以外も含めた昭和産業グループとしてさらなる二酸化炭素（CO_2）排出量削減を行い地球環境の保全活動を進めます。

※二酸化炭素（CO_2）排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）により公表されているCO_2排出係数により算出しています。

● 工場における取り組み

鹿島工場では、建築廃材などの木質チップを燃料として蒸気を作るバイオマスボイラーの使用、重油から都市ガスへの燃料転換等により二酸化炭素（CO_2）排出量削減に努めています。2013年度は重油を燃料としていた以前に比べ、約8,800tの二酸化炭素（CO_2）排出量を削減できました。

バイオマスボイラー



● 物流における取り組み

物流の取り組みでは、全国のお客様へ安全・確実に、そして地球に優しく商品をお届けするために、物流業者だけでなく、お客様にもご協力いただいています。車両の大型化とそれに見合う積載量輸送、グループ会社及びお客様物流の帰り便の利用、最も近い工場への生産移管、生産工場からのお客様への直送、小麦粉、植物油、ぶどう糖などの業務用製品については個別包装品からタンクローリー車による配送への切り替えを推進しています。これらの取り組みにより配送効率の向上だけでなく、物流由来の二酸化炭素（CO_2）排出量削減、包装材料資源の削減にも貢献しています。

また、トラック輸送に比べて二酸化炭素（CO_2）排出量が大幅に少ない鉄道や植物油タンカーでの輸送にも取り組んでいます。

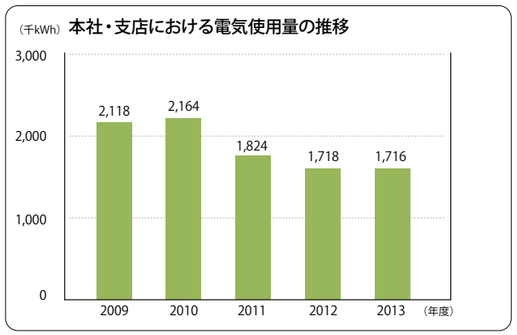
植物油タンカー

タンクローリー

コンテナ車

● オフィスにおける取り組み

本社、支店、研究所、工場事務所などのオフィスにおいては、昨年同様、オフィスの照明削減維持、室温設定による空調管理を実施しました。



● 太陽光発電設備

昭和産業は、再生可能エネルギー供給の促進支援として水戸市の旧飼料料技術センター跡地を太陽光発電事業者に貸与しています。ここでの発電規模はメガ発電と呼ばれる1.2メガワット、一般家庭約240世帯分の年間消費電力を賄える容量です。

社会への貢献

地域社会との共生を目指します

社会貢献基本方針

①「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」ために、大地の恵みである小麦・大豆・トウモロコシなどの食物を大切に扱い、良い製品を安定的に提供します。
② 昭和産業グループによる社会貢献活動を推進するとともに、社員一人ひとりが、社会活動・文化活動等に参加することを支援します。

昭和産業は、地域清掃活動、地域行事支援、寄付活動、食育活動、教育活動、災害支援など、全国各地の事業所において、地域社会への貢献活動を行っています。2013年度も本ページでご紹介する内容をはじめ、さまざまな活動を実施しました。今後も、各地での活動を継続するとともに、さらに充実した社会貢献活動の展開を目指していきます。

地域清掃活動

「大阪マラソン"クリーンUP"作戦」参加

昭和産業は、全国各地の事業所において、社員による周辺地域の清掃活動を定期的に行っています。2013年度、大阪市主催により「大阪マラソン"クリーンUP"作戦」が「第3回大阪マラソン」に先駆けて開催され、地域の美しいまちづくりを支援するため、昨年に引き続き大阪支店従業員が参加しました。その他の事業所においても継続的な活動により、清潔で美しいまちづくりへの貢献に努めています。

冠稲荷神社清掃（関東信越支店）

"クリーンUP"作戦（大阪支店）

地域行事支援

「かみすフェスタ2013」に参加

昭和産業は、地域イベントへの協賛により地域社会へ貢献しています。イベントへの協賛を通して、地域住民の皆様と交流を図り、地域社会との共生を目指しています。鹿島工場では、神栖市主催の「かみすフェスタ2013」において植物油やパスタ、ホットケーキミックスなど家庭用商品の販売を行いました。

神栖市「かみすフェスタ2013」協賛（鹿島工場）

寄付活動

不要になった本の寄付

昭和産業では、不要になった本の寄付を社内で呼びかけ、公益財団法人鉄道弘済会が運営する総合福祉センター「弘済学園」に寄付をする取り組みを行っています。寄付した本は、施設内でクリーニング後インターネット等で販売され、利益は同施設に還元されます。この取り組みは他社からもご賛同いただき協同で実施することで活動の輪を広げています。2013年度は合計1,092冊寄付しました。

エコキャップの回収

昭和産業では、全国の事業所にてエコキャップの回収を行っています。回収したエコキャップは、リサイクル業者に買い取っていただいた対価を寄付金として、途上国の子どもたちにワクチンを送る活動をしている団体に寄付されています。2013年度は、エコキャップ100,274個（ポリオワクチン125人分）を寄付しました。

使用済み切手の寄付

昭和産業では、お客様やお取引先様からいただく郵便物などに使用されている切手を回収し、本社がある東京都千代田区の社会福祉協議会へ寄付をする取り組みを行っています。収集された使用済み切手は、区内の施設等で青少年のボランティア体験の機会を提供する「夏休みボランティア事業」の活動資金に役立てられています。2013年度は合計1,446g寄付しました。

エコキャップ（本社、鹿島工場、広島支店）

食育活動

鹿島工場夏休み親子工場見学開催

昭和産業鹿島工場は、食育推進啓発活動の一環として、夏休みに小学生と保護者を対象に、お客様と共同で「親子工場見学」を開催しています。2013年は合計8回開催し、製粉工場の製造ラインの見学や小麦粉や食育に関する講義、『まるめて焼くだけもちもちパンミックス』を使用したパン作りを親子で体験していただきました。

小学校にて出張授業開催

小学校PTAからの依頼により、小学校にて小学6年生親子対象に食品ロスに関する講義と『まるめて焼くだけもちもちパンミックス』を使用した調理実習を実施しました。食品ロスの講義では、日本の食品ロスの状況から世界の飢餓状況まで紹介し、グローバルな視点から「もったいない」精神や食べ物の大切さについて考えていただきました。

「元気のでる朝食運動」に協賛

昭和産業は、朝食の大切さを見直し、簡単でおいしいメニュー作りの普及を目指す、一般社団法人栄養改善普及会主催「元気のでる朝食運動」に協賛しています。2013年度は全国40会場で開催され、小学生から大学生、親子や主婦など合計約1,200名が参加し、朝食に関する講義や『かんたんピザです』などを使った朝食向きの調理実習が行われました。

教育活動

大学生インターンシップ受け入れ

生産工場での生産技術業務を体験するインターンシップを実施し、鹿島工場にて電気系の学生2名をインターンとして5日間受け入れました。安全や設備技術に関する講習、「モノづくりに電気・制御統御のエンジニアリング業務がどのように関わっているか」を主テーマとした業務体験や課題の検討、最終日には検討内容を発表しました。

関係者一同（インターンシップ生は前列中央）

災害支援

ワンコイン募金実施

昭和産業では、大規模災害発生時、被害を受けた地域支援のため、社員が手軽に寄付できる「ワンコイン募金」を実施しています。ワンコイン募金は会社からの寄付も加えたマッチングギフトによる募金として各種支援団体に託しています。2013年度は、11月に発生した台風30号により被害を受けたフィリピンへの支援のため、「ワンコイン募金」を実施しました。募金は国連WFP協会に寄付し、食糧支援や物資の輸送、情報通信網の整備などに役立てられました。また、国連WFP協会から寄付についての感謝状が授与され、ホームページにて紹介されました。

国連WFP協会 事務局長　関口泰衛(左)
昭和産業株式会社 CSR推進部 部長　宮川知幸(右)

スポーツ活動への協賛

「SHOWA エキサイトマッチ2013」開催

2013年10月27日に、昭和産業がオフィシャルスポンサーとして応援している鹿島アントラーズの試合において、マッチスポンサーとして「SHOWA エキサイトマッチ2013」を開催しました。

オリジナルヘアバンドのプレゼントや、当社の商品を販売するチャリティーイベントも実施しました。

© OFFICE PRIMAVERA

鹿島アントラーズ ふれあいサッカー教室

2013年10月、茨城県内の企業と共同で「鹿島アントラーズサッカー教室」を開催しました。当日は約40名の小学生が参加し、鹿島アントラーズのコーチや選手と一緒にサッカーを楽しんでいただき、教室終了後に選手からのプレゼント抽選会や記念写真撮影会を行いました。

ワセダクラブカップへの協賛

昭和産業では、次世代育成・支援として地域の青少年スポーツ支援に取り組んでいます。今年度は2014年3月1日、特定非営利活動法人WASEDA CLUB主催の小学生ラグビー大会「ワセダクラブカップ」に参加した小学生4～6年生約350名の参加賞として製品協賛しました。

ステークホルダーとの対話・情報開示

さまざまなステークホルダーとの対話とともに、透明性の高い情報開示に努めます

情報開示の基本方針

① 関連法令・規則などに則った公正かつ透明性の高い情報の開示に努めます。
② 適切かつ積極的な情報開示・IR 活動を通じて、昭和産業グループに対する市場評価を高め、株主利益の最大化に努めます。
③ 幅広く社会との対話を行い、企業活動に反映させることに努めます。

昭和産業グループは「食」に関する幅広い事業を通して「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」とともに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通して、社会との共生を目指していきたいと考えています。

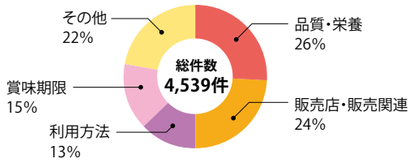
お客様とのコミュニケーション

● お客様相談センターの活動

お客様と昭和産業をつなぐ窓口として、「お客様相談センター」を設置し、常にお客様にご満足いただけるよう、迅速・正確・誠実な対応を心がけています。また、寄せられたご意見などを関連部署と共有化し安心・安全な商品の提供、サービスの向上に役立てています。

ホームページ上に商品に関するお問い合せ先としてフリーダイヤルを掲載するとともに、多数いただくお問い合わせ内容についてはQ&Aを掲載し、商品情報の公開に努めています。

お問い合わせ内容の内訳（2013年度）



商品に関するお問い合わせ先	お客様相談センター **0120-325-706** （受付時間：平日午前9時から午後5時まで）

ベーカリーセミナー開催

ベーカリー業界関係者などを対象に「おいしさの追求」をテーマにしたベーカリーセミナーを開催しました。セミナーでは、業務用小麦粉『ブルチアーレ』などを使用したパンや洋菓子の実演、各小麦粉の特長の説明、生地の活用方法など実践的な技術や店舗での訴求方法などをご紹介しました。このようなセミナーを通して、製品の魅力や技術をお伝えするとともに、お客様にとってより良い商品の提案や開発に努めています。

● ひまわりネットの開設

「お手軽簡単レシピが満載♪食生活クチコミサイト」として「ひまわりネット」を開設しています。商品紹介のほか、メニューレシピ、レシピコンテスト、お試しモニター、ネットショッピングなどを掲載しています。メンバーに登録していただいた方に、ブログの作成やおすすめレシピを投稿していただくなど、「ひまわりネット」を通してお客様との双方向コミュニケーションを図っています。

WEB ひまわりネット
http://www.himawarinet.com/

● 展示会への出展

商品を幅広くお客様に紹介するために、各種展示会に出展しています。2013年度には、「NOODLE WORLD 2013」「スーパーマーケット・トレードショー2014」などにグループ会社と共同で出展し、小麦粉、プレミックス、植物油、パスタ、冷凍食品、鶏卵など幅広い商品を紹介しました。

NOODLE WORLD

スーパーマーケット・トレードショー

株主・投資家とのコミュニケーション

昭和産業は、株主・投資家の皆様に対し、公正かつ透明性の高い情報開示に努めるとともに、IR（Investor Relations=投資家向け広報）活動を通じて、適切かつ積極的なコミュニケーションに努めています。

● 情報の開示

昭和産業は、ホームページ上に投資家情報やニュースリリースなどを開示するとともに、年に2回「株主のみなさまへ」を発行するなどして、透明性の高い情報開示に努めています。

WEB 投資家情報：
http://www.showa-sangyo.co.jp/corporate/ir

● 決算説明会などの実施

昭和産業では、機関投資家や証券アナリスト向けの決算説明会を、年に2回（5月、11月）開催しています。また、そのほかにも個別の取材対応を行うなど対話の機会を設け、そこでのさまざまなご質問・ご意見は、適宜IR 活動の参考とさせていただいています。

決算説明会

IR 情報のお問い合わせ先	経営企画部広報課 **TEL. 03-3257-2042** （受付時間：平日午前9時から午後5時まで）

地域住民の皆様とのコミュニケーション

昭和産業では、地域住民の皆様を対象とした工場見学や夏休みの親子工場見学を実施しています。工場見学を通して交流を図るとともに昭和産業への理解を深めていただけるように努めています。

鹿島地域工場見学

株主の皆様への還元

昭和産業では、長期的に安定した配当の継続を目指しつつ、経営基盤の一層の安定化を図ることを基本方針としています。今後も、戦略的な事業投資など長期的な企業価値向上に資するための内部留保を充実させつつ、株主優待制度と合わせて、株主の皆様への安定した利益還元を行っていきます。

株主優待制度

昭和産業では、株主の皆様のご支援にお応えするため「株主優待制度」を設け、年に1回、自社製品をお贈りしています。

● 対象株主
毎年基準日（3月31日）時点で、1,000株以上の株式を保有する株主様

● 優待内容
1,000株以上5,000株未満保有の株主様に対し、3,000円相当の自社製品を贈呈。
5,000株以上保有の株主様に対し、5,000円相当の自社製品を贈呈。

株主優待品（2014年）
（1,000株以上5,000株未満の株主様向け）

お取引先とのコミュニケーション

昭和産業では、各工場において、工場内作業に従事している業務委託先企業と毎月、安全協力会を開催し、労働安全、製品安全等の向上を図っています。

神戸工場安全協力会

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA 昭和産業株式会社

発　　行　2014年7月

発　行　者　昭和産業株式会社
〒101- 8521　東京都千代田区内神田2丁目2番1号（鎌倉河岸ビル）

お問い合わせ先　CSR 推進部　TEL：03-3257-3022　FAX：03-3257-3026

ホームページ　http://www.showa-sangyo.co.jp

このレポートは、FSC®認証紙及び植物性インクを使用し、有害な廃液の発生が少ない水なし印刷を採用しています。
また、廃棄物の削減を考慮し、無線綴じを採用しています。